

# 優 秀 賞

『低貸玉での景品交換の在り方』

西田 優香 様

日本大学 芸術学部 放送学科 4年

## 目次

- 1.はじめに
- 2.低貸玉ではなぜ損をした気分になってしまうのか
- 3.低貸玉でも損をしたと感じさせないために
- 4.おわりに

### 1.はじめに

パチンコを国民大衆の気軽な遊びとして多くの人が参加する産業とするためには、低貸玉での遊技をもっと「得をした」と感じるものにする必要があると考える。

私はパチンコやスロットで遊技することが好きだ。しかし、私は現在一人暮らしの学生。投資できる金額に限りがありどうしても4円パチンコや20円スロットではなく1円パチンコや5円スロット等の低貸玉での遊技になってしまう。低貸玉での遊技は大敗するリスクが低く、遊びやすいがひとつ大きな問題がある。それは「低貸玉での遊技は景品交換時に損をした気分になる」ということである。例えば、勝ったとしても損をした気分になってしまうことが多々あるのだ。損をした気分になってしまうと、「得をしないし、もうしばらくパチンコやスロットの遊技はやめよう。」とってしまう。

私の様に資金力の低い学生や初めての方でも遊びやすい低貸玉での遊技。もし、沢山大当たりを引いて出玉を伸ばしたのに損をした気分になってしまったら、「また遊技しに行こう」と思いにくくなる。さらに、よりリスクの高い4円パチンコや20円スロットにはもっと手を出しにくくなってしまう。つまり、気軽で多くの人が参加する産業とは全く反対のものになってしまうのだ。

### 2.低貸玉ではなぜ損をした気分になってしまうのか

出玉と景品を交換するとき、ほとんどの人は特殊景品と交換をし、余った玉を貯玉したりお菓子等の景品と交換したりする。4円パチンコや20円スロットでの出玉で景品交換をするときよりも低貸玉での遊技の出玉で景品交換をするときの方がより余り玉が出やすく、特殊景品との交換がしにくくなる。もし、特殊景品と交換できた出玉がわずかで余り玉が多くなってしまったら「今日打ったのが4円パチンコ(20円スロット)だったらこんなに余り玉は出なかったのに」と損をした気分になってしまうのである。

また、多くの人が余り玉で交換する景品はお菓子や飲み物等の飲食物であるが、この景品と交換でき

る出玉のレートはどの遊技方法でもほぼ変わらない。

(例：とあるホールの景品交換所の場合 500ml ペットボトル 1 本/4 円パチンコ 40 玉、1 円パチンコ 160 玉、20 円スロット 8 枚、4 円スロット 40 枚)

低貸玉での景品交換の方がより余り玉が出やすいにも関わらず、交換レートが変わらないのも損をした気分になる理由である。

### 3.低貸玉でも損をしたと感じさせないために

では、どうしたら低貸玉で遊技をした場合でも損をした気分にならずに済むのか。方法はふたつあると考える。

ひとつ目の方法は、特殊景品以外の景品と出玉を交換する場合、低貸玉での交換レートを優遇するということである。低貸玉での景品交換の方がより余り玉が出やすいのならば、その余り玉で交換できる景品もより多ければ、損をしたなと感じにくくなるはずである。

ふたつ目の方法は景品に魅力的なものを増やすことによって、遊技者の考え方を「出玉は特殊景品と交換して余り玉は貯玉やお菓子等と交換」という考え方から「低貸玉での出玉は特殊景品ではなく、それ以外の景品と交換する」という考え方に変えるということである。現在、どこのホールでも飲食物や日用品、装飾品等、様々な景品が用意されているが余り玉で飲食物と交換する以外は、それらの景品と出玉を交換している様子はほとんど見られない。それは遊技者にとって特殊景品以上に魅力的に見えないからである。交換するために出玉がより必要になる低貸玉での遊技ならばなおさらである。

魅力的な景品を増やし、さらにひとつ目の方法とあわせて低貸玉での交換レートを優遇すれば、「あえて特殊景品とは交換せず、その他の景品と交換した方がお得だ」という考え方が増え、損をしたなとは感じにくくなるはずである。

出玉を景品と交換できるということはパチンコ、スロットの強み。もし、ゲーム性を味わいたいだけならば、スマートフォンのアプリやゲームセンターで遊技した方がお金もかからず楽しむことができる。だからこそ、ホールに足を運んで遊技する価値がある魅力的な景品にすることが大切なことである。

### 4.おわりに

リスクが低く、遊びやすさが売りの低貸玉での遊技。遊びやすくても損をした気分になってしまう遊技者は増えない。もし、低貸玉でも損をしたと感じにくくなれば、初めての方でもパチンコ、スロットでの遊技に挑戦しやすくなり、気軽な遊びとして、多くの人に参加することにつながるはずである。